

企業ニュース ユニ・チャーム

(東証1部: 8113) <https://www.unicharm.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

成長分野への経営資源シフトの効果が現れる

ベビー・大人の紙おむつや、生理用品などのフェミニンケア商品、マスクなどを取り扱う衛生用品メーカー。ペット用品も手掛ける。21. 12期・第2四半期累計の事業別売上高構成比は、衛生用品全般を含むパーソナルケア86%、ペットケア13%、その他1%。また、同期の地域別売上高構成比は、日本37%、アジア47%、その他16%と、海外が半分以上を占める。将来的なアジアの少子化を懸念し、経営資源をベビー用紙おむつから成長分野である大人用紙おむつやペット用品などにシフト。加えて、衛生用品のプレミアム化（高付加価値・高単価）を進めることで、持続的な収益成長を目指すとしている。21. 12期は戦略の効果が現れつつあり、中長期での成長が期待される。



注力カテゴリーが好調、コア営業利益は想定上振れ

21. 12期・第2四半期累計（1-6月）の連結業績は、売上高が3,770億円、前年同期比6%増、コア営業利益（売上総利益から販売費および一般管理費を控除して算出した利益）が618億円、同12%増。国内の大人用紙おむつやペットケア、中国のフェミニンケアなどの販売が好調。東南アジア各国や北米などの主要国も増収となった。粗利益率は同1. 2ポイント改善、増収効果に加え、利益率の高いカテゴリーの売上高比率が高まったことが寄与した。広告費や物流費などの販管費は増加したが粗利益の改善で吸収、コア営業利益は2桁増益で会社想定を上回る進捗となった。

21. 12期の通期会社計画は、売上高が7,700億円、前期比6%増、コア営業利益が1,190億円、同4%増。下期は原材料費や物流費の増加が懸念される。特に原材料高騰の影響について、会社はコア営業利益へのマイナス影響を年間で85億円と期初の25億円から60億円増額したが、上期の上振れ分でおおむね吸収できるとしている。また、商品リニューアルに伴う価格改定、継続的に行っているコスト削減の施策を進めることで利益を確保し、計画達成を目指す。

【株価動向・投資判断】

短期的には費用増が懸念されるが、注力しているカテゴリーや地域の販売は好調であり、中長期の成長期待が高まろう。

<8113 ユニチャーム 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	コア営業利益	税引前当期利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19. 12	714, 233 (4)	89, 779 (▲ 6)	69, 538 (▲ 24)	46, 116 (▲ 25)	77. 5	28. 00
20. 12	727, 475 (2)	114, 744 (28)	95, 849 (38)	52, 344 (14)	87. 6	32. 00
21. 12 予	770, 000 (6)	119, 000 (4)	117, 000 (22)	75, 000 (43)	125. 9	36. 00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/9/16)	4,942 円
年初来高値 (高値日)	5,208 円 (21/9/10)
同 安値 (安値日)	4,122 円 (21/5/11)
予想 P E R (21. 12 予)	39. 3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	880. 5 円
P B R	5. 61 倍
予想配当利回り	0. 73 %
(1株当たり配当金年36. 00円)	
R O E (20. 12)	10. 8 %
発行済み株式数	62, 083 万株